

第 70 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会【全体会】

日時：2026 年 8 月 5 日（水）

全体会・部会①・部会② 10:30～12:00（予定）

場所：JR 東日本現地会議室

次 第

【全体会】

(1)開会

(2) 信号機跡含む 5・6 街区間における高輪築堤の現地保存箇所について 【資料 1】

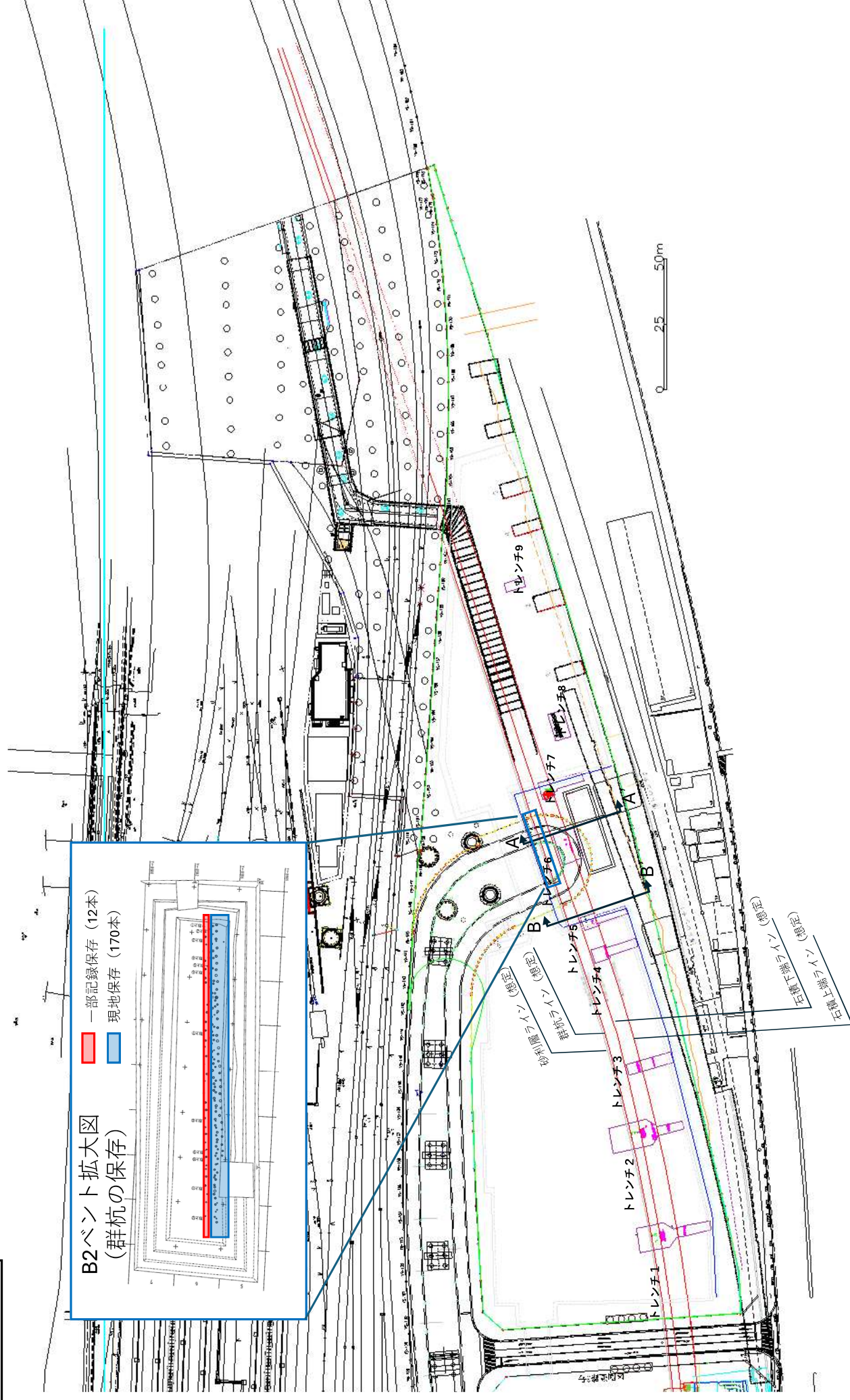
(3) 第 69 回本委員会でのご質問に対する回答 【資料 2】

(4) 第 21 回「国際交流拠点・品川」における高輪築堤等の価値・あり方に関する有識者検討
会議 議事概要の共有 【資料 3】

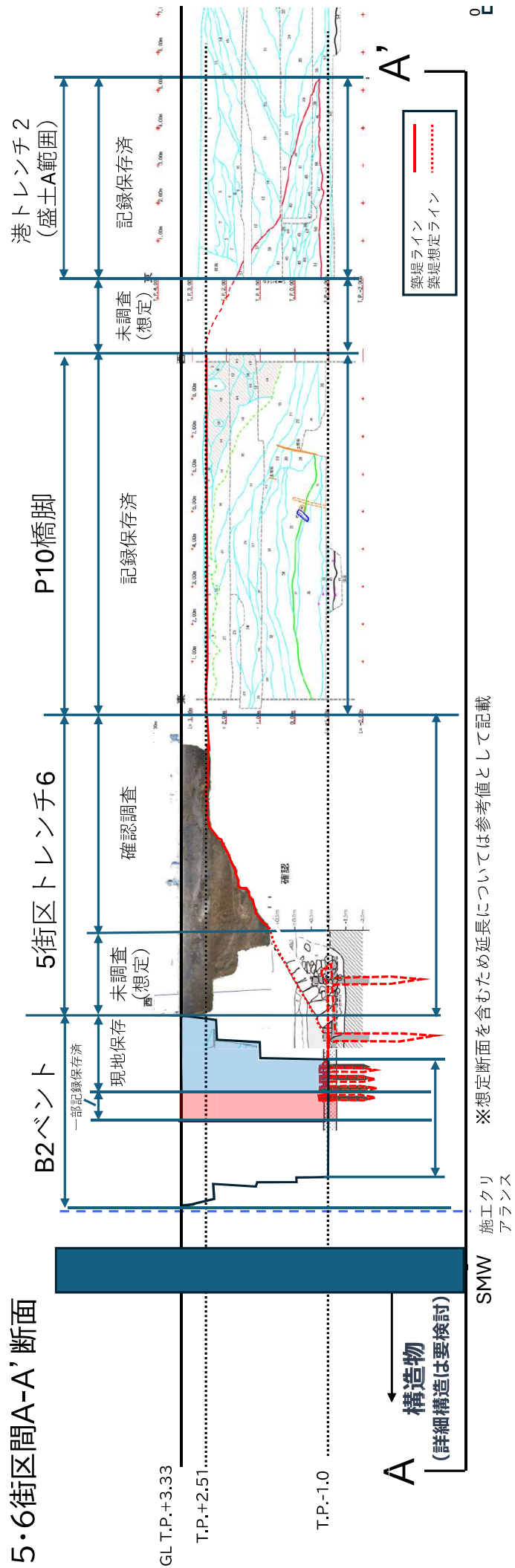
(5)その他

(6)閉会

※なお、資料のなかで個人に関する情報や事業の関係等で非公開である情報については、一部表現を修正しています。その他、写真・図について一部訂正や出典等の加筆・修正をしています。

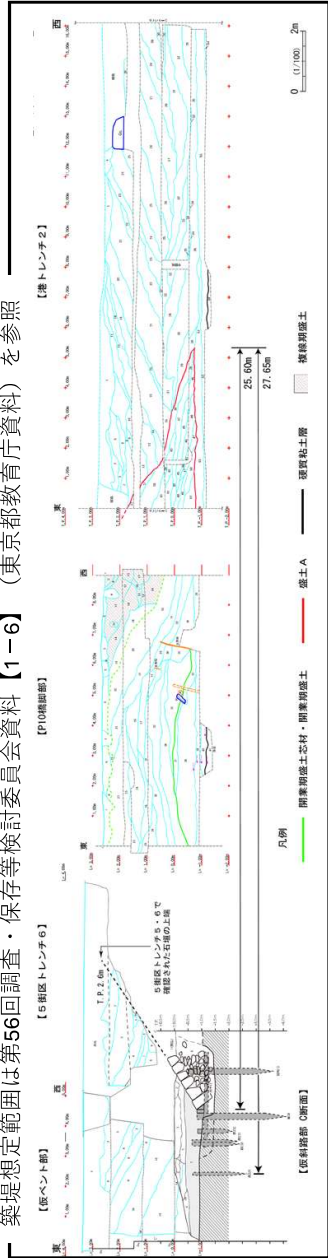


5・6街区間A-A'断面



※想定断面を含むため延長については参考値として記載

築堤想定範囲は第56回調査・保存等検討委員会資料【1-6】（東京都教育庁資料）を参照

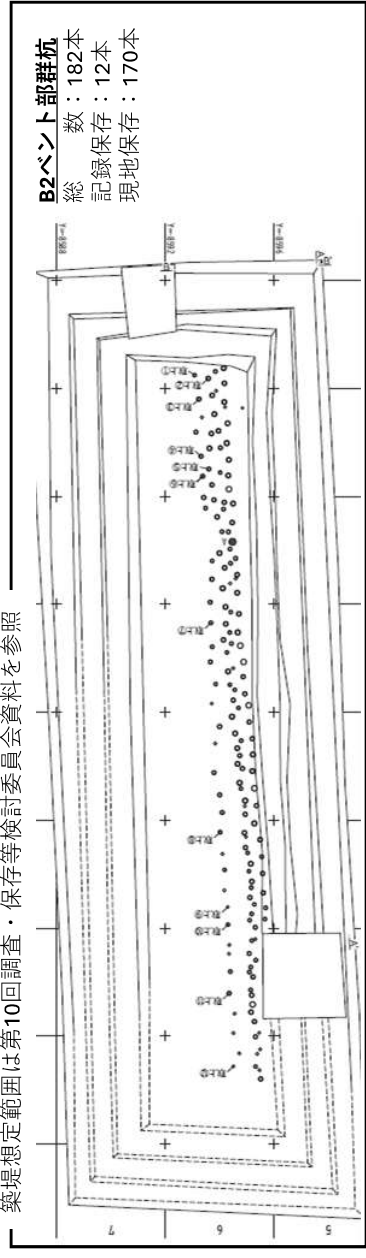


築堤想定範囲は第52回調査・保存等検討委員会【資料1-4】
(港区教育委員会資料) 5街区トレンチ6を参照



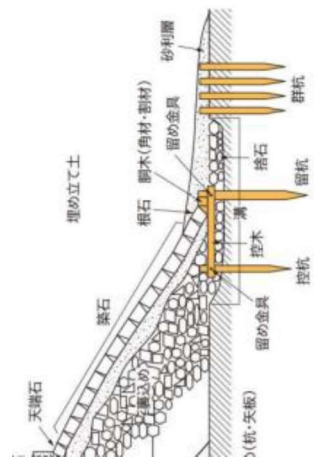
5街区トレンチ6 南壁断面

築堤想定範囲は第10回調査・保存等検討委員会資料を参照



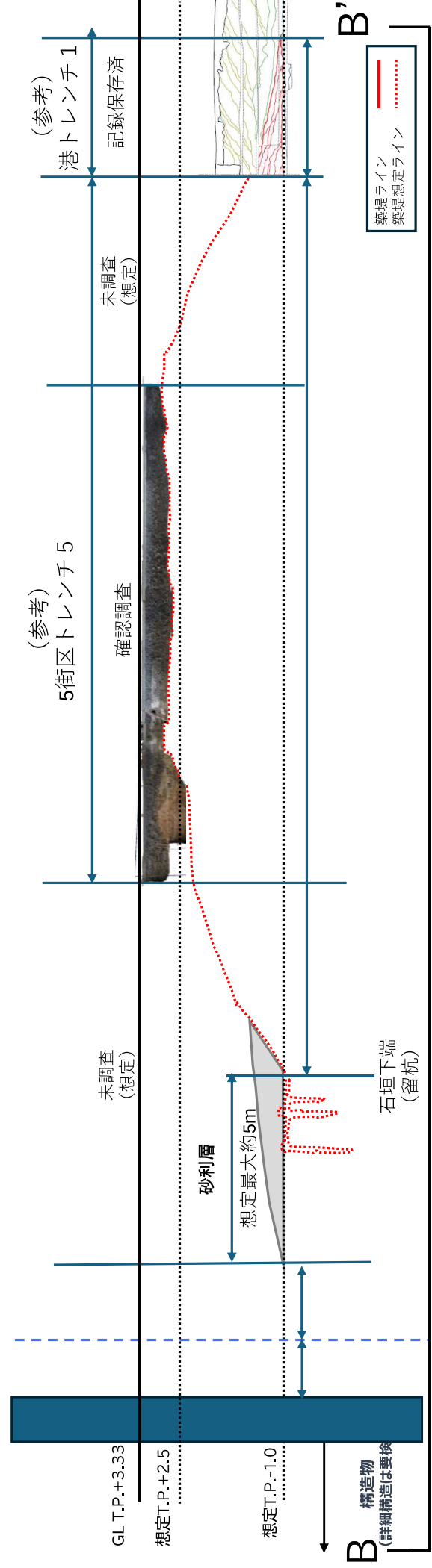
B2ベント部群杭
総数：182本
記録保存：12本
現地保存：170本

保存活用計画書p88の図を参照



※今後の協議・設計等に伴い変更となる場合があります

5・6街区間B-B'断面

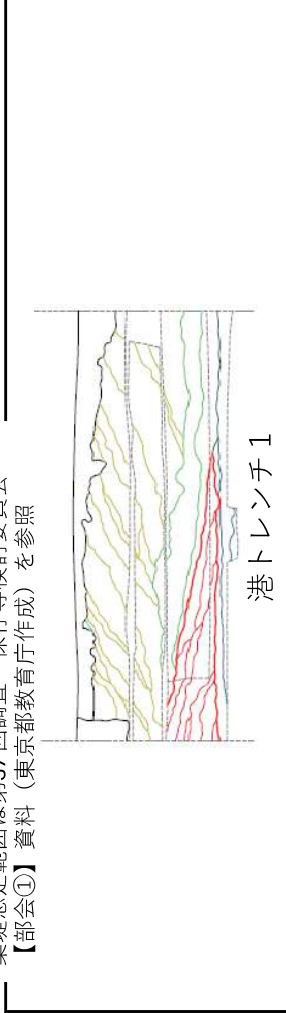


※築堤範囲はB-B'断面近傍のトレンチ5、港トレンチ1より想定
※砂利層については3街区の断面図より想定（港区教育委員会事務局より提供）
※想定断面を含むため延長については参考値として記載

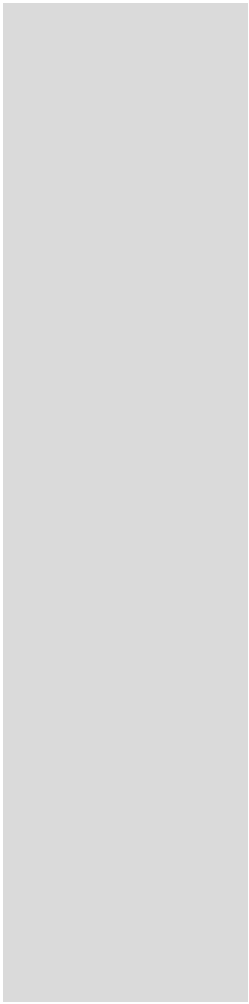
築堤想定範囲は第52回調査・保存等検討委員会
【資料1-4】（港区教育委員会資料）を参照



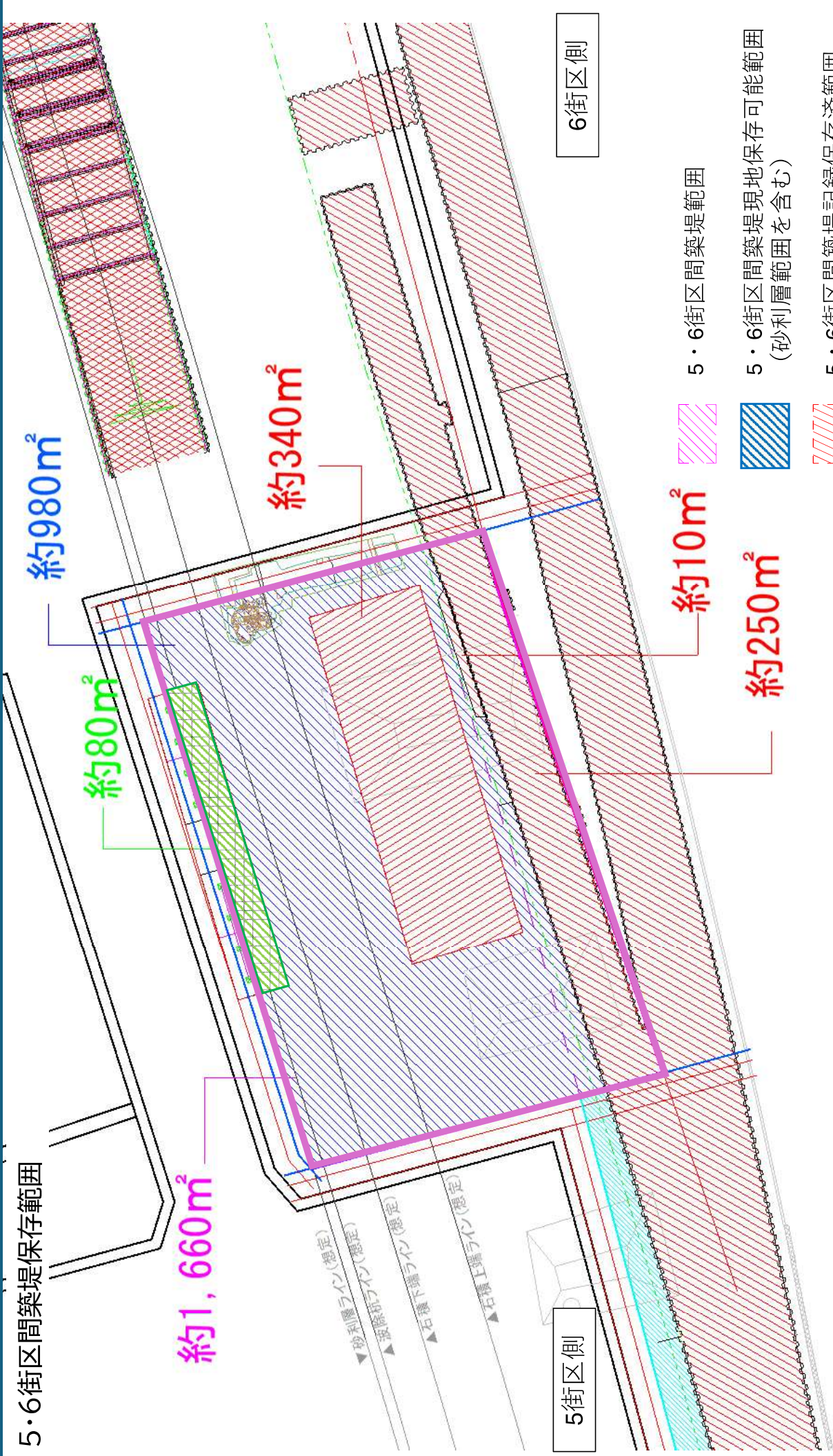
築堤想定範囲は第37回調査・保存等検討委員会
【部会①】資料（東京都教育庁作成）を参照



砂利層については3街区の断面図より想定（港区教育委員会事務局より提供）



砂利層の範囲は3街区調査結果より最長である
5mの範囲で想定



5・6街区間築堤保存範囲

5街区側

6街区側

5・6街区間築堤保存面積	
総面積	: 約1660㎡
記録保存済範囲	: 約 600㎡
現地保存可能範囲	: 約 980㎡
現地保存可能範囲 (一部記録保存範囲及び砂利層範囲含む)	: 約80㎡

- 5・6街区間築堤範囲
- 5・6街区間築堤現地保存可能範囲 (砂利層範囲を含む)
- 5・6街区間築堤記録保存済範囲
- 5・6街区間築堤現地保存可能範囲 (一部記録保存範囲及び砂利層範囲を含む)

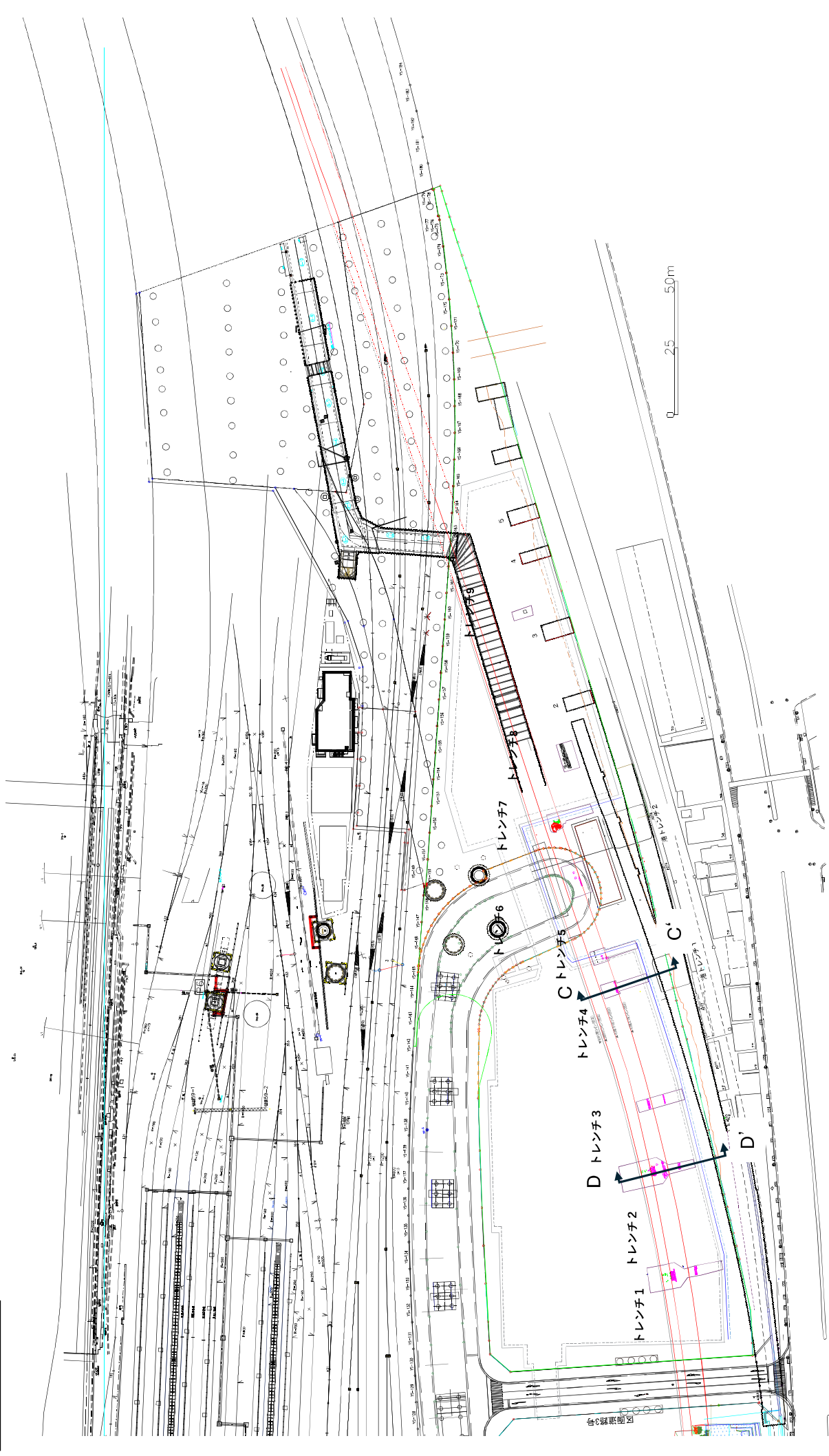
5・6街区間信号機跡拡大図



※今後の協議・設計等に伴い変更となる場合があります

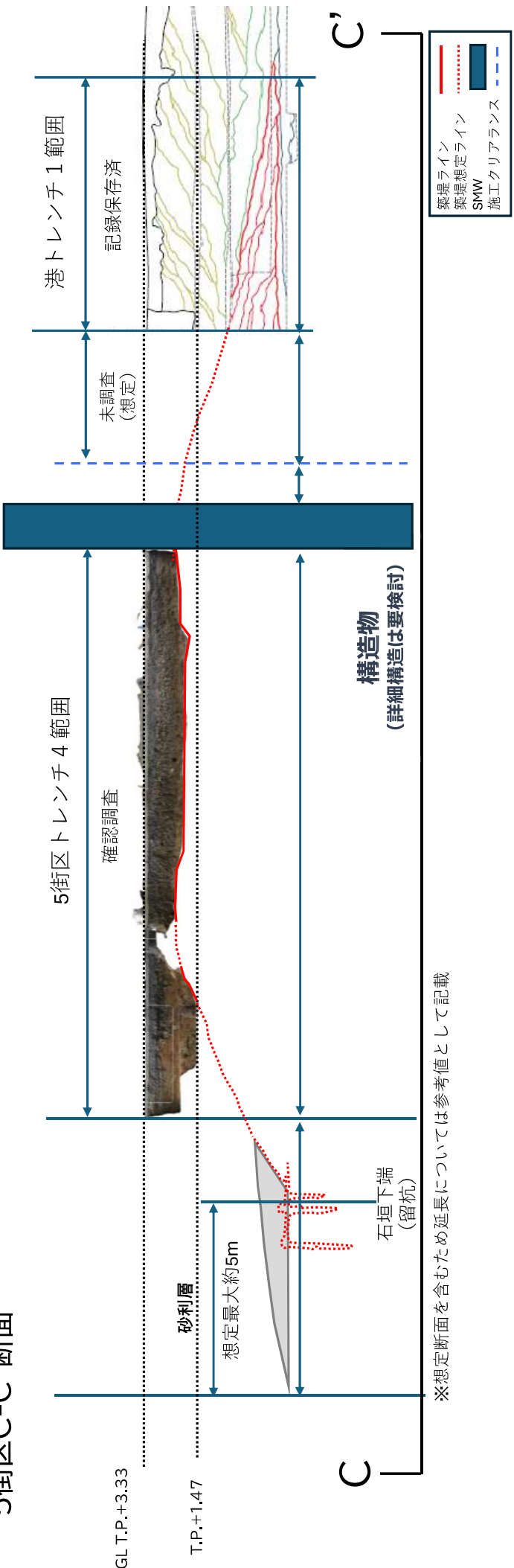
高輪GW方

品川方



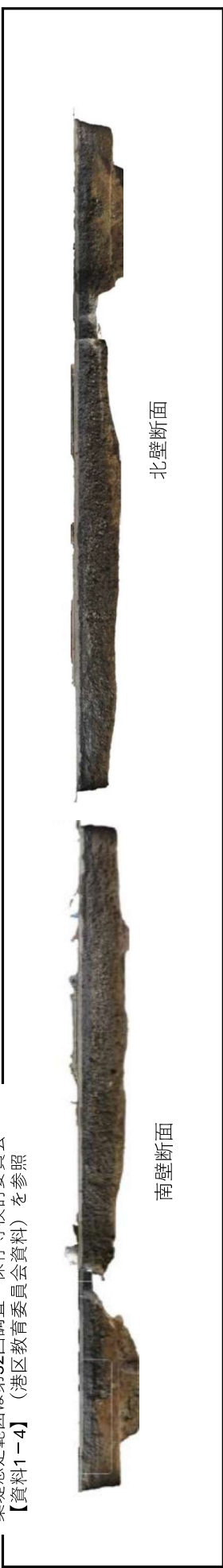
※今後の協議・設計等に伴い変更となる場合があります

5街区C-C'断面

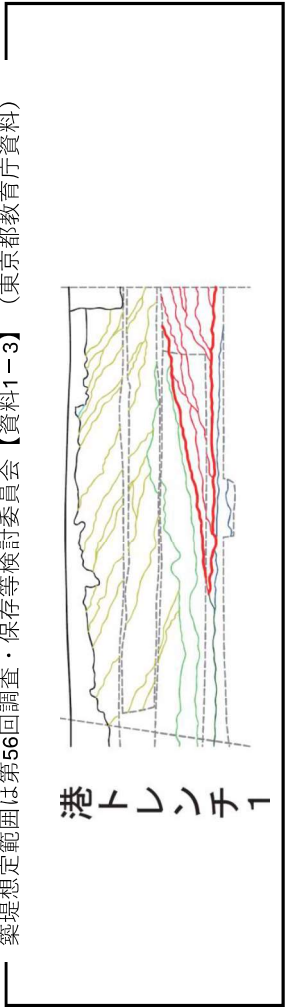


※想定断面を含むため延長については参考値として記載

築堤想定範囲は第52回調査・保存等検討委員会
【資料1-4】(港区教育委員会資料)を参照

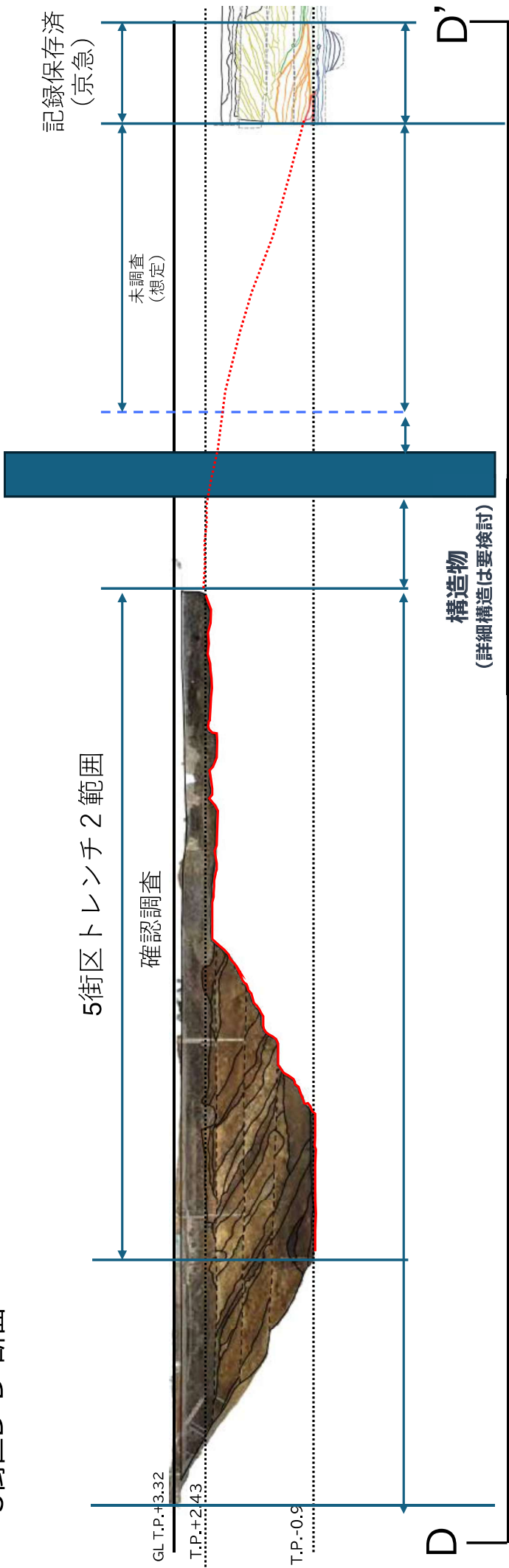


築堤想定範囲は第56回調査・保存等検討委員会【資料1-3】(東京都教育庁資料)



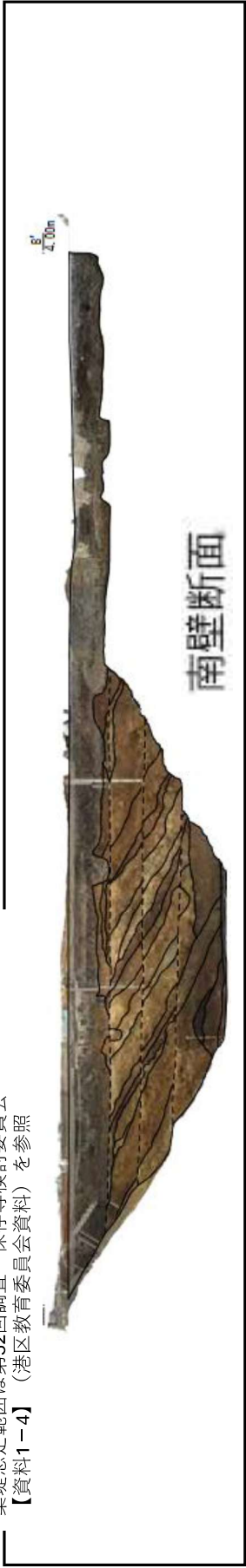
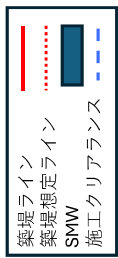
※今後の協議・設計等に伴い変更となる場合があります

5街区D-D'断面

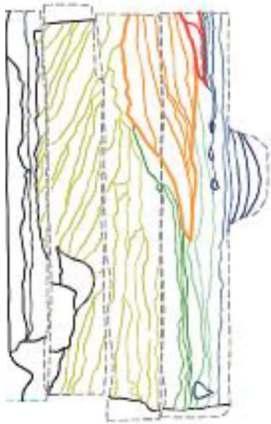


※想定断面を含むため延長については参考値として記載

築堤想定範囲は第52回調査・保存等検討委員会
【資料1-4】 (港区教育委員会資料) を参照



築堤想定範囲は第56回調査・保存等検討委員会【資料1-3】 (東京都教育庁資料)

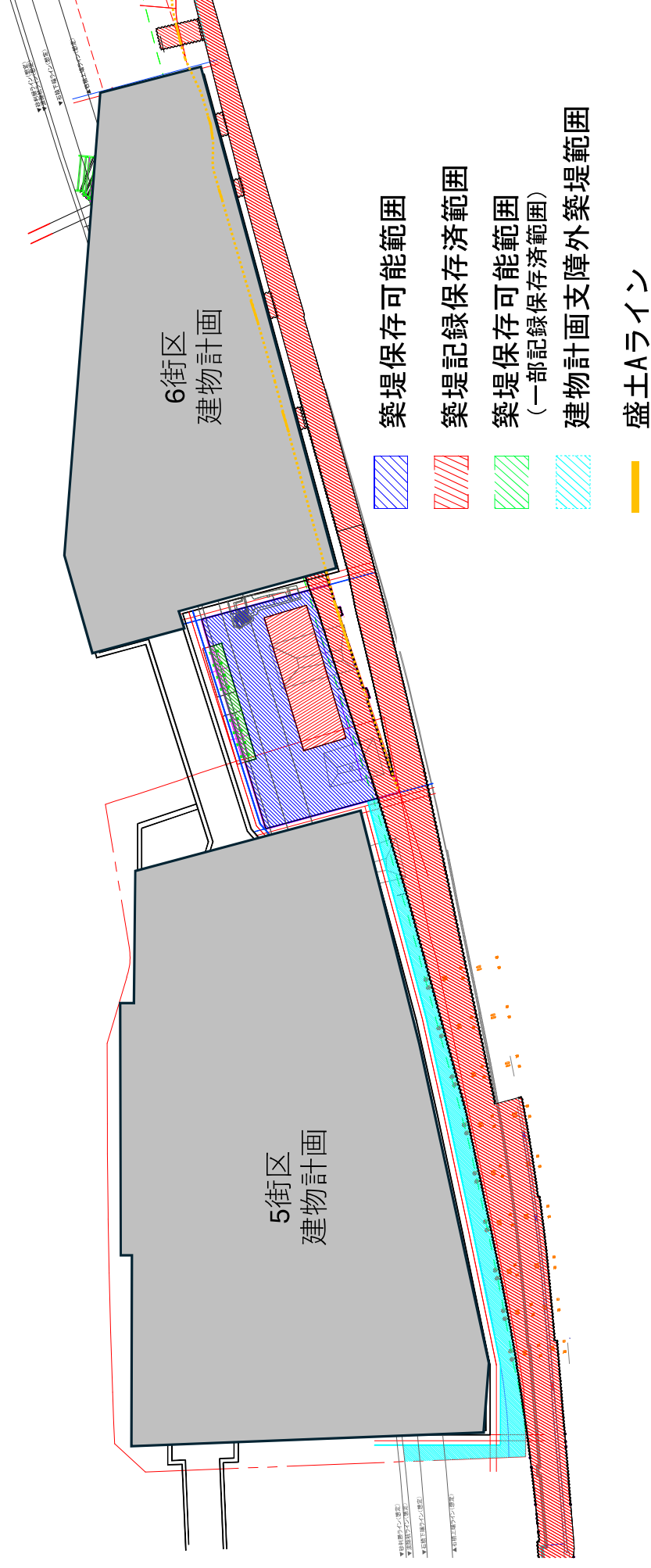


※今後の協議・設計等に伴い変更となる場合があります

5.6 街区築堤保存範圍

高輪GW方

品川方



※今後の協議・設計等に伴い変更となる場合があります

「国際交流拠点・品川」における高輪築堤等の価値・あり方に関する有識者検討会議（第21回）

議事概要

I 開催概要

日 時： 2026（令和8）年7月27日（月曜日）14時30分～16時30分
場 所： JR東日本 現地会議室

II 議事概要

1 「高輪築堤の保存・価値・継承のあり方を十分に踏まえたまちづくりについて」の意見交換

1) まちづくりと高輪築堤の保存・価値・継承の両立に向けた議論の進め方について

- 資料2を説明する。（事務局 JR）

〔説明概要〕

- ・「高輪築堤調査・保存等検討委員会」（以下、「検討委員会」とする）及び「有識者検討会議」の検討についてこれまでの経緯と進め方について取りまとめた。
- ・信号機跡を含む5・6街区間の高輪築堤の現地保存について、2026年2月の第64回「検討委員会」及び2026年2月の第19回「有識者検討会議」を受けて「築堤関連会議体の議論を踏まえた5・6街区WG」（以下、「協議体」とする）での具体的な検討内容を整理した。

2) （情報共有）「信号機跡を含む5・6街区間の現地保存」に係る検討・協議状況について

- 資料3、資料3別紙1・2、参考資料1-1～1-4を説明する。（事務局 JR）

〔説明概要〕

- ・「協議体」は関係事業者、関係行政機関、有識者で構成する。
- ・「協議体」の目的は信号機跡を含む5・6街区間約50mの高輪築堤の良好な保存と歩行者ネットワークを含むパブリックスペースの形成を実現する都市基盤施設及び結節空間整備の計画について方策を取りまとめることである。
- ・「協議体」は2026年3月～7月にわたり計6回開催した。
- ・主に都市基盤施設として区画道路4号の形状変更と歩行者デッキと地下車路の一体構造化、併せて事業者による建物計画等の検討を行い、現時点において信号機

跡を含む 5・6 街区間の高輪築堤約 50m の区間の現地保存の実現と都市基盤施設、建物計画等の変更についての見通しが得られた。

- ・今後、保護措置の整理後に実務的な検討を経て各種法令等の手続きを進める。
- ・都市基盤施設や結節空間のあり方は協議体において引き続き検討を進める。

3) (情報共有)「高輪築堤調査・保存等検討委員会」における協議状況

- 資料 4、資料 4 別紙、参考資料 2-1・2-2 を説明する。(事務局 JR)

〔説明概要〕

- ・2026 年 7 月の第 69 回「検討委員会」において事業者より信号機跡を含む 5・6 街区間の高輪築堤の現地保存の実現の見通しの報告を行った。
- ・検討委員会の委員見解となる「高輪築堤等の文化財的価値および保護措置について(6)」に対する JR 東日本の見解として、協議体の中で信号機跡を含む 5・6 街区間の現地保存の見通しが立ったこと、6 街区南部の状況の報告、4 街区における第 7 橋梁南横仕切堤の移築保存について示した。
- ・委員見解を出発点とした信号機跡を含む高輪築堤約 100m の現地保存という要望について数多くの合理的な開発計画のシミュレーションを実施し、網羅的な検討を行ってきたが、いずれもネットワークの確保や建物計画の成立性等の観点から開発計画の成立が難しく、現地保存との両立が困難であるという結果を提示してきた。
- ・これに対し、信号機跡を含む 5・6 街区間約 50m の現地保存という案を「協議体」での議論を経てまとめてきた。
- ・なお、5・6 街区間約 50m を含んだ上で 100m の高輪築堤を保存するパターンも検討してきたが、これまでの検討と同様に実現が困難という結果となった。

4) 「高輪築堤の保存・価値・継承のあり方を十分に踏まえたまちづくりについて」のとりまとめに向けた意見交換

- 資料 5 を説明する。(事務局 JR)

〔説明概要〕

- ・資料 4 までの内容を踏まえ、本日の会議で議論いただきたい内容をまとめた。
- ・本日は、高輪築堤の保存・価値・継承のあり方を十分に踏まえたまちづくりの推進に関する取りまとめに向けた意見交換をお願いしたい。
- ・信号機跡を含む 5・6 街区間の現地保存について一定の実現見通しは得られているものの、取りまとめさらに慎重な判断が求められる状況にあると認識している。
- ・特に建物計画と築堤の関係性において、施工計画との検討が未了であり、取りまとめに向けた保存範囲の信頼性を担保する観点では十分ではないと考える。
- ・信号機跡については、その文化財的価値を踏まえ、確認調査の結果等も精査しながら、現地保存の十分な検証を実施していくことが重要である。
- ・したがって、今回の会議で取りまとめを行うというご意向を頂いていたが、大変恐縮ながら今回の会議での取りまとめは見送っていただき、次回の会議で取りまとめの案をご議論いただくという流れでお願いしたい。

- 資料2～4について意見をもらう。(松浦座長)
- 熱心な議論を経て一定の見込みが得られた。協議参加者には御礼を申し上げる。(中井氏)
- 都市計画変更の手続きや、現地保存後の結節空間の整備の姿などがこれからの課題になるので引き続き協議体での議論を継続する。(中井氏)
- 都市計画変更が実現しそうということで大変喜ばしいが、一度決定した都市計画を短期間で変更することは異例のことである。信号機跡が重要な発見であり都市計画変更に値する十分な理由であることを各立場の方が同意したという理解でよい。(西村氏)
 - ← 全体としてその通りである。文化庁からも遺構の発見に伴う都市計画変更の事例を紹介してもらい、理由として都市計画変更もよろしかろうという共通認識を得ている。都市計画決定から短期間であるが、その間に発見されたものとなるので理由としては十分であると考えている。(中井氏)
- 6街区の接道など技術的な課題が多いと思うが、難しい課題は残っていないという認識でよい。(西村氏)
 - ← 接道問題は協議体でも議論し、従来の基準を踏襲すれば大丈夫だろうという内々の協議も経て、解決の方向を見出している。解決に至るまでにクリアすべき条件はあるが、その議論の結果が本日説明した短絡ルート案と理解してもらいたい。(中井氏)
- 都市計画は決定まで時間がかかるが、その間に事業者側も様々な設計の進捗があると思う。どのように調整して進めていくか。(西村氏)
 - ← 建物計画の見直しなど具体的な調整は文化財の保存の具体的な方向性が見えた段階で検討・協議を進めていきたい。(事務局 JR)
- 短期間の整理に感謝する。信号機跡を残すために JR 東日本も建物の一部をセットバックするなど変更を行うということであり、解決に向けていい方向が見えてきた。(木曾副座長)
- 5・6街区間の現地保存の問題が一定の結論を得たことは大変ありがたい。検討委員会の問題は5・6街区全体へ言及していく状況になる。9月の検討委員会で委員見解を提示する予定である。(谷川氏)
- 信号機跡が保存できることが大きな前進である。(小野田氏)
- 5・6街区間での保存の実現見通しが立ったことが喜ばしい。(老川氏)
- 協議体の議論をまとめていただき感謝している。信号機跡に対応する築堤をどれくらい残すことができるかが、今後の具体的な検討だと思う。(文化庁)
- 協議体の議論に感謝する。8月の検討委員会でも JR 東日本から詳細資料が提示されるということだが、それを踏まえてしっかりと議論していければよい。(東京都)
- 協議体の議論に対して感謝する。9月の検討委員会の議論を注視したい。(港区)
- ぜひ築堤を目に見える形で保存してもらい、将来のまちづくりに活かすことを積極的に検討してもらいたい。(港区)
- 資料5について意見をもらう。(松浦座長)

- 5・6街区は開発区域全体や品川駅街区に係る範囲において一連の施設という扱いの中で役割分担を議論することが必要である。築堤のあった長い区間における展示施設の場所や役割をメリハリつけて整理したい。(中井氏)
- 5・6街区は区域が細長く、接続する出入口も限られている。泉岳寺駅、高輪ゲートウェイ駅、品川駅からの接続部分をどうしていくかについて、まず考えたい。その後、展示方策や残し方という点を一連の中で計画していきたい。(中井氏)
- 概ね開発のゴールが見えてきた段階だが、今のうちに保存と両立の計画、あり方の検討を進めておきたい。(中井氏)
- 地区全体が細長い、遺構が点として保存される形になっている。デザインの中にうまく継承がわかるような工夫を施して、全体のつながりが見える配慮をしてもらいたい。(西村氏)
- 新橋～横浜間鉄道が担った日本の近代化の物語をどの場所でどうプレゼンし、どう次につながっていくのかというストーリーや情報をうまく出していけるように戦略的に考えてもらいたい。動線が限られているのでどこでどういう話を伝えるか、計画しやすい。日本の近代化に資する遺構であることをうまく伝えてほしい。(西村氏)
- 日本の近代化の歴史を感じられる場所をどう表現するか、検討を進めてもらいたい。国際交流拠点として、国際的な情報のハブとして機能する観点と歴史を将来に発信する観点をうまく融合させた空間ができるとよい。(木曾副座長)
- 個別にいろいろと保存されて公開されることは非常によいが、全体像の中でどういう位置づけとするかが高輪築堤の価値のあり方として非常に重要だと思う。(松浦座長)
- 新橋～横浜間鉄道の近代史上の位置づけ、その中での高輪築堤の位置づけ、歴史的な意義がわかるような展示を作ってもらいたい。この部分を一番期待している。(松浦座長)
- 保存された遺構をどうするかはまだ検討の途上であり、「検討委員会」はまずは保存について傾注する。(谷川氏)
- 高輪築堤と東海道の間埋め立てなど、遺跡の発掘調査の生々しい成果についてもまちづくりに活かすことができればいいと思っている。(谷川氏)
- 史跡区域に加えて信号機土台部の移築保存、第7橋梁南横仕切堤の移築保存など、ある程度連続して残るようになる。これが5・6街区で途切れるような形になるので、何らかの形で残ることが重要である。(小野田氏)
- 築堤が作られた当時のまちづくりと築堤の関係性についても、地域のまちづくりを進めるうえで重要な観点である。(老川氏)
- 東海道と築堤の間の部分の発掘も進めているので、その成果をまちづくりのストーリーに反映してもらえるとありがたい。(東京都)

2 閉会

- 本日の有識者検討会議の議事要旨は8月5日(水)に開催される第70回「検討委員会」に情報共有する。議事要旨の内容は事務局に一任いただきたい。(事務局 JR)
- 次回第22回「有識者検討会議」は本日の議論を踏まえて9月8日(火)の開催を予定する。今回とりまとめというご意向を頂いていたが、次回、「有識者検討会議」としてのと

りまとめの場とする。本日の資料5を含めてどのような形で整理するか、事前に各有識者の皆様にご相談し、進めさせていただきたい。(事務局 JR)

- まずは5・6街区間の保存のあり方をまとめていくが、本日の議論を受けて開発区域や築堤全体における役割や連携の方法などについて、折を見て有識者検討会議でもご意見を頂きたいと思っている。頻度は、検討を進める時間の関係もあるので、例えば年に2回程度を考えられればと思う。(JR)
- 本日は終了する。(事務局 JR)